



県政報告

2017春

三重県議会議員

田中ゆうじ

田中ゆうじ事務所

〒515-0022 松阪市新屋敷町 409 番地

TEL0598-50-2322 FAX0598-50-2319

http://tanaka-yuji.xrea.jp

Email:toubu-01@mctv.ne.jp

平成 29 年度一般会計当初予算 7,011 億円など 106 議案を可決

予算決算常任委員会で総括質疑を行いました

1. 三重県の財政悪化が各市町に与える影響について

質問：県財政は悪化しているが、市町の予算編成にどのような影響を与えているのか。また、国からの補助金があっても県負担の補助が出せないため、事業化できないという市町があるのではないかと。



答弁：市町の財政に影響をする事業見直しについては、市町などに訪問して三重県の現状について説明し十分な協議、調整を行った。また、国が負担をしていただいた分については、県のほうは適切に対応できるものと考えている。

質問：公共事業は年々削減され、ピーク時の約 3 分の 1 まで落ち込んでいる。公共事業へのシワ寄せが強すぎるのではないかと。

答弁：社会保障関係経費などの増加が他の経費を圧迫している。直轄事業、国保事業、災害復旧など、効果的に社会資本整備を進めることができる事業などは必要額を確保している。

2. 交通安全施設整備事業について

質問：平成 28 年度は、対前年度 70%以下という要求基準に従って 3 億 8000 万円余であったが、平成 29 年度は 55%のシーリングを外し、6 億 3000 万円増の 10 億 1000 万円余とした経緯は。

答弁：交通安全施設の老朽化対策をトッププライオリティーと位置づけ、緊急性を財政当局に訴え、知事査定を経て、28 年度予算を大幅に上回る大規模臨時的経費として措置された。

意見：人命に関わることをシーリングという形で削減してきたこと自体問題がある。人命に関わる予算には、配慮願いたい。

3. 激化する豪雨に対する対策について

質問：堆積土砂は、洪水、氾濫等の災害を発生させる原因の一つであると共に、農業用水の取水にも大きく影響している。平成 29 年度の河川堆積土砂の撤去予算は 6 億 5500 万円であるが、土砂撤去量の推移と今後の方向性は。

答弁：平成 26 年度末は約 299 万 m³あったが、平成 28 年度末は 230 万 m³に減る見込み。年間 10 万 m³程度の土砂流出があると考えており、砂利採取を活用しながら、全体量の減少に取り組む。

4. 地域医療構想について

意見：平成 37 年の医療提供体制を目的とする地域医療構想は、2900 床のベッド数の削減等、多くの課題がある。受け皿となる地域包括在宅ケアシステム等の構築を進めていただきたい。

「子どもの貧困対策調査特別委員会」が知事へ提言

我が国の子どもの貧困率は 16.3%となり、6 人に 1 人の子どもが平均的な生活水準の半分に満たない状況にあります。

また、子どもがいる現役世帯のうち、大人が 1 人の世帯の貧困率は 54.6%と非常に高く、経済的に苦しい状況となっています。子どもの貧困対策調査特別委員会は、昨年 5 月に設置され主に福祉、教育、雇用の分野における子どもの貧困対策について、県内外で調査を行い、平成 29 年 3 月 24 日に、副委員長として委員長とともに、子どもの居場所づくりと学習支援、児童養護施設を退所した後の実態把握、国の補助制度を活用した予算確保、市町への意識共有を図ることなどを知事に求めました。



(写真右が三重県知事)

日々の活動はブログに掲載しています。

http://blog.livedoor.jp/yuji_matsusaka